

成果報告書

1. 事業の題名

「 特別支援学校高等部卒業生等を中心に対象とした若者の学びを展開するための学習プログラムの開発事業 」

2. 委託事業の実施期間

平成30年7月10日から平成31年3月8日まで

3. 選択した研究テーマ（該当欄に○を記入）

(ア) 学校から社会への移行期

○

(イ) 生涯の各ライフステージ

4. 実施組織の構成

（下記①②に必要事項を記載するほか、団体等の組織図など、組織体制の全体像が分かる資料を別途添付すること。）

① 組織の主要構成員（役員等）

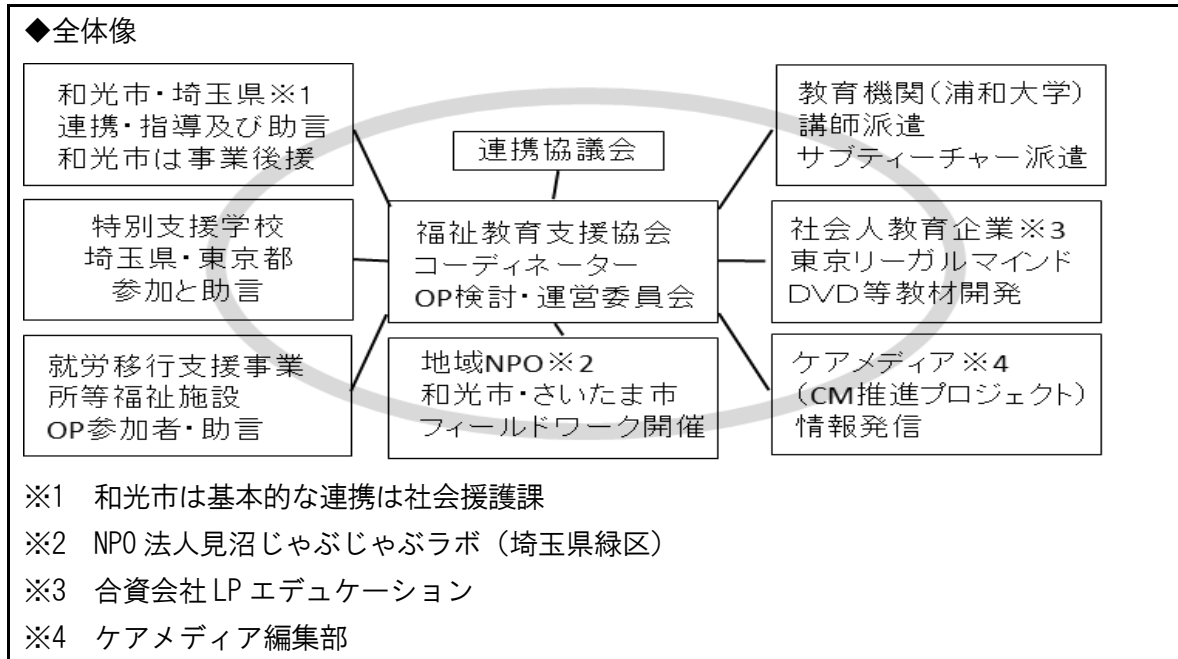
氏名	所属・役職等	備考欄
最上義	一般財団法人福祉教育支援協会代表理事	
高尾和宏	一般財団法人福祉教育支援協会理事	
尾崎美賀子	一般財団法人福祉教育支援協会理事	
瀧本真也	一般財団法人福祉教育支援協会監事	
引地達也	一般財団法人福祉教育支援協会 上席研究員	

② 事業推進担当者

氏名	所属・役職等	備考欄
引地達也	一般財団法人福祉教育支援協会 上席研究員	
白壁昌司	一般財団法人福祉教育支援協会 事務局	
最上千都	法定外シャローム大学 教授	
加藤のぞみ	法定外シャローム大学 事務局	
杉本頼久	一般財団法人福祉教育支援協会 事務局	

5. 事業の実施に係る全体像

(連携先や再委託先までを含め、本実践研究事業の実施に係る全体像について図示すること。また、本事業全体を通じた目標の達成状況や、本事業終了後の目指す方向性等についても触れること。)



6. 事業の実施結果

(1) 効果的な学習プログラムの開発

①開発の実施経過

(具体的な内容は6.(1)②に記載すること。)

4月	
5月	
6月	
7月	
8月	8月10日 第一回連携協議会開催
9月	9月11日 第一回オープンキャンパス開催 基礎教育ステージ1 9月12日 第一回オープンキャンパス振り返る会
10月	10月11日 第二回オープンキャンパス開催 基礎教育ステージ2 10月17日 第二回連携協議会開催
11月	11月13日 第三回(その1)オープンキャンパス開催 関わりあいステージ 11月27日 第三回(その2)オープンキャンパス開催 関わりあいステージ 11月28日 第三回(その2)オープンキャンパス開催 関わりあいステージ
12月	12月13日 第三回連携協議会開催
1月	1月19日 第四回オープンキャンパス開催 実践教育ステージ1 1月23日 第四回連携協議会開催
2月	2月11日 第五回オープンキャンパス開催 実践教育ステージ2

	2月26日 第五回連携協議会開催
	2月26日 最終報告会開催
3月	

②具体的な内容

(効果的な学習プログラムに係る取組内容を具体的に記載すること。学習講座や活動等を開催した場合、実施スケジュールや内容、多様な者との交流や共同学習など共生社会の実現に向けた取組、障害者当事者の意見の反映や自主的な活動の促進、外部講師招聘及びボランティアスタッフ活用の有無、参加対象者のターゲット(障害種・属性・活動規模等を含む。)等を記載すること。また、結果として、効果的な学習プログラムを提示し、根拠とともに記載すること。なお、開発結果を踏まえ今後さらに検討すべき点や課題等についても触れること。)

本事業は以下3つの大きな柱をもとに実施された。

- 1 オープンキャンパスの開催
- 2 連携協議会で本事業にかかる案件についての検討
- 3 コーディネーターを中心にした視察と調査

1 オープンキャンパスの開催

ステージ	開催	講義演目	内容
基礎教育	9月19日	学びと社会—学びってなんだろう 担当講師 九里秀一郎・浦和大学社会学部教授 ファシリテーター 引地達也・法定外シャローム大学学長	人が「学ぶ」ことについて、哲学や倫理学、宗教学、社会学の多方面から考え、話し合いながら考える ・自然科学—空飛ぶクラゲの実験 ・社会科学—ハムスターとクマのぬいぐるみ、あいさつのアオシスとは
	10月11日	メディアと倫理—メディアを知ろう、使おう 担当講師 引地達也・法定外シャローム大学学長 講師 ピアノコーラスグループ、サム(ハマ、ケンゴ、ノゾム) 講師 田中暎・東京大学大学院	ソーシャルメディアが誰でも使える時代におけるメディアについて、映像の歴史等を見ながら考える ・メディアの歴史を知ろう ・お笑い番組の変遷 ・声に出して自分がメディアになる
関わりあい	11月	見沼の田んぼで「おいしいお米を食べよう×自然観察」 担当講師 小林節子 NPO 法人見沼じゃぶじゃぶラボ代表	見沼田んぼの広場でのフィールドワーク ・見沼田んぼクイズ ・かまどでご飯炊き ・おにぎりをにぎる ・わら投げ大会

	ファシリテーター 引地達也	・自然散策
	11月28日、29日 和光市で新発見！歩いて、見て、食べて、発信！ 担当講師 和光市のボランティアの方々 ファシリテーター 引地達也	各グループで和光市の魅力スポットを歩き、食べて、取材し発信する ・観光地-和光に来たらここに来て ・和光でおいしいグルメスポット 壁新聞を制作し発表
実践教育	1月19日 働くための学習－仕事に役立つ資格、PCスキルアップ 担当講師 大槻一敬・法定外シャローム大学准教授 ファシリテーター 引地達也	自分の適職から、社会や仕事に役立つ資格の学び方について考える ・モチベーションの上げ方 ・やる気マックスワークショップ ・人をほめる ・自分の適職を探す ・イラストレーターを使う ・名刺作成
	2月11日 ビジネスとコミュニケーション－素敵に交わって話し合う 担当講師 林真理子・法定外シャローム大学研究員・ビジネスマナー講師 ファシリテーター 引地達也	ビジネス社会での人との対話のやり方を多方面から考え実践する ・クッションを使っのワークショップ ・コミュニケーション「ストローク」 ・名刺交換 ・エンジェル先輩とデビル後輩のワークショップ

すべてのプログラムは午前から午後にかけての開催で、昼食は近くの公園や施設内の調理室に移動して「一緒に」とることを奨励した。これにより新しい仲間づくりにつながり、講義をスムーズにさせるのに役立った。

第一回オープンキャンパス

内容

基礎教育ステージ

学びと社会 ～ 学びってなんだろう ～

人が「学ぶ」ことについて、自然科学や物理学、哲学、心理学、人間関係学の多方面から考えます。

- 学問は古代ギリシャから

① 哲学 (Philosophia フィロソフィア：知を愛する) が古代ギリシャで発達しました。

- ② 哲学者プラトン（紀元前 427-347 年）は「アカデメイア」という学校を創設、そこでは天文学、生物学、数学、政治学、哲学等が教えられました。
- ③ そこでは対話が重んじられ、教師と生徒の問答によって教育が行われ、すぐれた哲学者が育てられました。



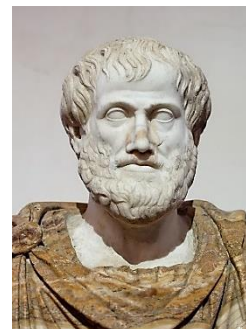
古代ギリシャの学校
アカデメイア
紀元前 387 年



● 哲学が学問の始まり

- ① プラトンの弟子のアリストテレスは「学問の祖」と呼ばれます。
- ② 自然学（物理学）や心理学など、現在の学問のほとんどが彼の哲学の中に含まれています。
- ③ 哲学を土台として1世紀にキリスト教が誕生し、4世紀以降、ヨーロッパ全体に広がりました。
- ④ アウグスティヌスは紀元 400 年頃、キリスト教神学を大成し、自然科学や心の科学の発展に大きな影響を及ぼしました。

アリストテレス
紀元前 384-322 年



講義の内容

< 身近な物体と心の科学から学ぶ楽しさを体験しよう。 >

講義 1（自然科学）

物体と物体を結ぶ自然界の见えない力
～空飛ぶ電気クラゲ～

物体と物体の摩擦によって静電気が発生します。静電気は紀元前 600 年頃、ギリシャ最古の哲学者タレスの記録にあります。電気にはプラスとマイナスがあります。同種の電気は反発力、異種の電気は引力が発生します。電気クラゲは静電気の反発力で空中に浮いてフワフワ飛びます。

講義 2（心の科学）

心と心を結ぶ言葉の见えない力
～オアシスで仲間を作ろう～

私たちは他人の言葉に影響を受けます。「何かお困りですか?」と聞くと、親しみのある良い感情を持ちます。まるで相手の心の引力を感じるようです。逆に、不快な言葉は心の反発力を感じます。オアシスの言葉は仲間づくりに広く使われています。

- オ おはよう
- ア ありがとう
- シ しんせつ
- ス すみません



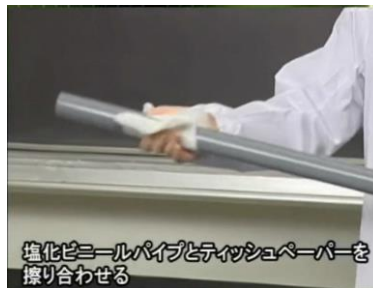
- オ おはよう
- ア ありがとう
- シ しんせつ
- ス すみません

講義 1 物体と物体を結ぶ自然界の见えない力 ～空飛ぶ電気クラゲ～

< 電気クラゲとは? >

◆ 電気ので飛びます。

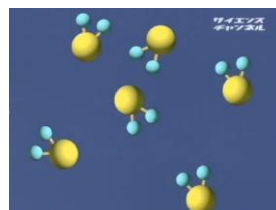
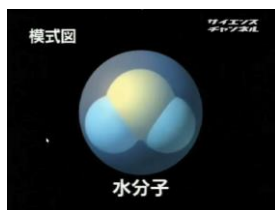
電気クラゲは、ビニールひもで作ります。水道管につかう塩化ビニールのパイプを使います。キッチンペーパーなどの紙でこすると、電気クラゲもパイプもマイナス電気を帯びますので、反発して空を飛びます。アクリル定規の場合はプラス電気を帯びるので電気クラゲは定規にくっついてしまいます。



< 物体とは? >

◆ 物体は分子が集まってできています。

分子は原子が集まってできています。古代ギリシアでは、物体を分割した時の最小単位として原子論が考えられました。しかし、あまりにも小さいので、20世紀に入ってアインシュタインが証明するまで存在が確認されませんでした。



◆ 原子は素粒子で作られています。

マイナスの電気をを持った電子やプラスの電気をを持った陽子などがあります。電子はとても小さく、物体の中を移動します。電子の移動によって電子が減った物質はプラスに、電子が増えた物質はマイナスの電気を帯びます。原子の中心にはプラスの電気をを持った原子核があります。

< 自然界の見える力とは何だろう? >

◆ ビッグバン

20世紀の科学者は、今からおよそ140億年前に、宇宙が大爆発で始まったことを発見しました。それが「ビッグバン」です。その時に、物質の源である素粒子が作られ、それらが原子、分子を構成し、様々な物質が誕生しました。さらに、それらがたくさん集まって星を創り、太陽や地球が生まれました。そして、長い年月が過ぎて地球に人間が誕生したのです。人間も、宇宙誕生の時の素粒子で出来ているのです。

◆ 4つの自然界の力

ビッグバンの時に4つの力が生まれました。それが、自然界の見える力です。その力によって、素粒子から原子や分子が作られ、さまざまな物質が宇宙に誕生しました。

重力

私たちにとって最も馴染みのある力です。重力は無限遠まで働き、星、太陽、地球、月

など、天体を動かす力です。

電磁気力

次に馴染み深い力で、「電気力」と「磁気力」の2つがあります。この力によって原子が作られ、原子が集まって分子ができます。化学反応や電気など、現代では最も利用されている力です。

弱い力

原子核（原子の中心にある核）の中の力です。核を分裂させる弱い力が知られています。

強い力

原子核の中にある、ものすごく強い力です。原子力として利用されています。

◆ 電気クラゲを飛ばして見よう。

上手に飛ばすには、クラゲと棒に静電気をたくさん起こすことです。静電気は物に触れると流れて無くなります。すばやく飛ばすのがコツです。

講義2 心と心をつなぐ言葉の見えない力 ～オアシスで仲間を作ろう～

< オアシスで仲間を作るとは? >

◆ オアシスの言葉は心をつなぐ力として使われています。

「何かお困りですか?」と聞くと、親しみを感ずきます。逆に、「どうぞ勝手にしてください。」と聞くと、不快に感ずきます。まるで、言葉がプラスやマイナスの電気の引力や反発力のように働きます。オアシスの言葉は、心と心をつなぐ力として広く使われています。

挨拶 オ おはよう
感謝 ア ありがとう
親切 シ しんせつ
反省 ス すみません



挨拶 はなごさん おはようございます。
たろうさん おはようございます。

感謝 はなごさん ありがとうございます。
たろうさん どういたしまして。

親切 はなごさん 何かお困りですか。
たろうさん ご親切にありがとうございます。

反省 はなごさん すみませんでした。
たろうさん どうぞ気にしないでください。

< 心とは? >

◆ 心は物体ではない「実体」

心は物体ではありませんが、確かに人間の中に存在します。これを実体と呼びましょう。この実体は、言葉と密接に関係します。キリスト教神学者のアウグスティヌスは「心と愛」の関係を研究して、心の科学の発展に貢献しました。心理学では「ハムスターのmondai」という心の実体を学ぶ教材があります。

ハムスターのもんだい



誕生日にハムスターが欲しいのです。ところが、クマのぬいぐるみでした。



お母さんを悲しませたくない。

クマのぬいぐるみを感謝しました。

「ハムスターが欲しい心」、「お母さんを悲しませたくない心」、さらに、「そのいずれかを選ぶ心」、このような「心の多様性」に気づく時、心の実体が見えてきます。心の実体は「人格」とも言えます。

< 心に働く言葉の力とは? >

◆ 言葉は心に働く「相互作用」

二つの実体が互いに影響を及ぼしあうことを相互作用と言います。言葉は二つの心の相互作用です。プラスとマイナスに働く電気力も同じように相互作用です。

◆ オアシスで仲間を作ろう

オアシスの言葉は、心と心をつなぐ力として世界で広く使われています。ワークシートを利用して、グループごとに、いろいろなオアシスの言葉を使って見ましょう。

開催風景





感想集計

アンケート調査の質問1, 2, 4を抽出。その理由などは「感想の一例」で一部紹介

質問1 本日のプログラムは楽しかったですか

質問2 本日のプログラムは勉強になりましたか

質問4 本日のプログラムを受けて、また勉強したいと思いましたか

質問1		質問2		質問4		年齢・性別	
とても楽しかった	14	とても勉強になった	12	とても勉強したいと思った	10	男	13
まあ楽しかった	10	まあ勉強になった	12	まあ勉強したいと思った	11	女	9
それほど楽しくなかった	0	それほど勉強にならなかった	0	あまり思わなかった	0	非回答	2

全然楽しくなかった	0	全然勉強にならなかった	0	全然思わなかった	0	年齢回答者数	20
その他	0	その他	0	その他	3	平均年齢	37

感想の一例

- ・聞いていてわかりやすくすんなり話が入ってきたので聞いていて楽しかった（18歳男性）
- ・講義とワークの組み合わせがとてもメリハリが付き楽しめたと思う（71歳女性）
- ・本物の先生が教えてくださったため。知らないことが多く知れたため（32歳男性）
- ・科学と心理学がつながっていると知って、とても興味がわきました。もっと知りたい!! 「電気くらげ」、実はやってみたかった実験だったので、とても楽しかったです（35歳女性）
- ・学びと社会について、良く分かった。人が学ぶのはどういう事か分かった（27歳男性）
- ・コミュニケーション能力の勉強になった（29歳男性）
- ・最初に思ってたことが自分の思っていたことではなく、相手を気づかうことで生まれる思いも、自分の思っていることだと言うのを知って、勉強になりました（36歳女性）
- ・電気クラーゲなど普段出来ないこともやったり、普段学べない知識を学べたからです。
- ・物理学と心をむすびつけたところが面白かった。反ばつしあう場合とくつつく場合があることが分子と心であることがわかった。物質は分子まで分解できるが心は分解できるのだろうか。
- ・最近、緊張が持続していたので、少し緩めることができた
- ・緊張もしたのですが、物理学と心という形のないものとの関係がよく似ているなどを考えて実感できた。そのことが楽しく感じました。
- ・聞いているだけでなく、考えたり、相談したり、体を動かしたりと他者とかわりあいながら様々な学びのスタイルで進められていて、自分だけでなく同じグループの皆さんの笑顔をたくさん見ることができて良い時間を過ごすことができました。

第二回オープンキャンパス

内容

基礎教育ステージ 第二回目 2018年10月11日

メディアと社会 ～ 知る、観る、使う ～

講義の狙い

メディアを知って、メディアを観て考えて、メディアになります！

メディアとは何か

人間コミュニケーションを行うための道具（手段）＝媒体

単数形 medium＝メディウム

複数形 media＝メディア

マスメディア

新聞・ラジオ・テレビなど最高度の機械技術を駆使して不特定多数の人々に対して情報を大量生産し大量伝達する伝達システム マスメディアを使ってなされる活動
＝マスコミュニケーション（マスコミ）

それぞれのメディアの特徴

新聞: 文字と画像

テレビ: 声と映像

ラジオ: 声と音

インターネット:
文字と声と音と映像と画像

何を伝えるの？

ニュース
情報
エンター
テインメント
広告

	特徴	参加	信頼
新聞	確実性・記録	✖	○
テレビ	分かりやすさ	✖	△
ラジオ	安易さ	△	△
インターネット	気軽さ	◎	✖

歴史の流れ



講義の内容

< メディアの歴史を知って、観て、使おう >

講義 1 (メディアを知る・観る)

メディアの歴史変遷とお笑い番組
～私たちはメディアの中にいる～

人が何かを「正確に伝える」ために文字があり、遠くに早く伝えるために「狼煙」や「信号」が生まれました。その流れからマスメディアが発展し、現在のパソコンやスマートフォンを使ったコミュニケーションに至っています。またお笑い番組から社会背景とテレビの歴史を考えます。



講義 2 (メディアを使う)

メディアを使う自分は今「メディア」
～自分の声で伝える気持ちいい音とは？～

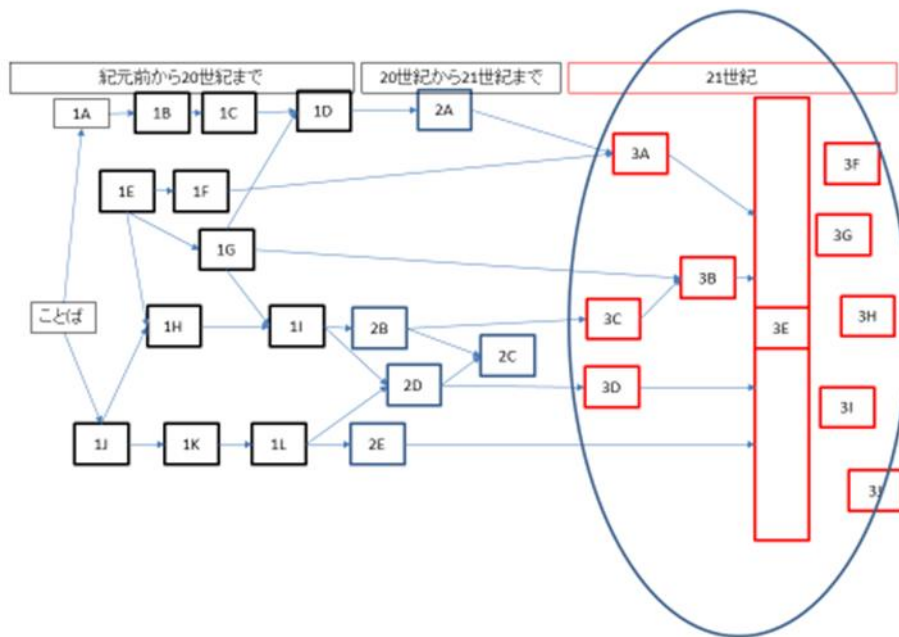
メディアの発展により、多くの人に情報を発信し、いろいろなところから情報を取得するのをパソコンやスマートフォンというメディアを活用することで、メディアは個人のものになり、そして個々人がメディアとなりました。そのみんなが「メディア」時代に必要なことを考えます。



講義1 メディアを知る、観る ～歴史の変遷とお笑い社会～

◆メディアの歴史

<メディア変遷図>

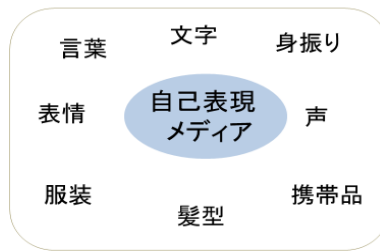


◆お笑いの歴史

- 1960年～ゲバゲバ90分 大橋巨泉・前田武彦
ショートコント、単純化された笑い
- 1970年～8時だよ全員集合 ドリフターズ
演劇的な計算されたドタバタ劇、キャラクター化と疑似化
- 1980年～おれたちひょうきん族 ビートたけし、明石家さんま
テレビの発展に伴うパロディと内輪話の共有化
- 1990年～めちやめちやいけてる ナインティナイン
パロディの企画化と他芸能人との融合
- 2000年～アメトーク 雨上がり決死隊
司会とそのほかの芸人とのコミュニケーションゲーム

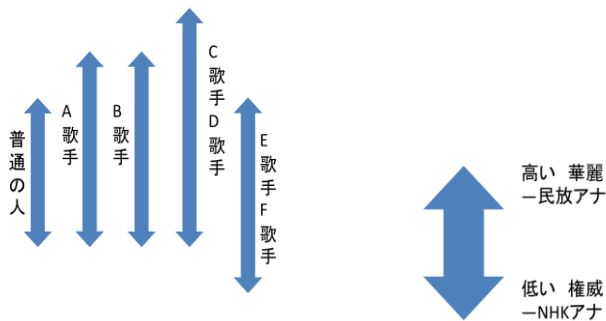
講義2 メディアになる ～音とは何か、音域・音質・自分の声～

◆自分をメディアと考えてコミュニケーションする



◆ 音域

人の声には音域があります。その音域が広いほど、表現の幅が広がります。言葉の伝達にも高いか低いかは伝わり方に大きな影響を与えます。高い音は華麗に聞こえ、低い音は権威的に聞こえます。



元気なあいさつはどんな音か、同情の気持ちはどの音が適切か。

◆ 音質

音質はどのような雰囲気伝わるかに関係してきます。歌唱法にもその雰囲気が大切で、例えば「演歌風」「ポップス風」「オペラ風」「ロック風」など表現方法は様々です。音質を考えてどんな伝え方をするのか考えた上、一番大切なことは「自分の声を知る」ことです。

開催風景





感想集計

質問1		質問2		質問4		年齢・性別	
とても楽しかった	20	とても勉強になった	24	とても勉強したと思った	18	年齢回答者数	29
まあ楽しかった	13	まあ勉強になった	8	まあ勉強したいと思った	9	平均年齢	37
それほど楽しくなかった	1	それほど勉強にならなかった	2	あまり思わなかった	4	男	15
全然楽しくなかった	0	全然勉強にならなかった	0	全然思わなかった	0	女	16
その他	3	その他	3	その他	6	未回答	6

感想の一例

- ・グループワークで、チームのみんなでメディアについて考えたり、歌をうたったりするなど参加型の講義だったため（24歳女性）
- ・内容が良かったこと、参加型であったこと、変化に富んでいたことが理由です（48歳女性）

- ・サームの講座全体的に楽しかったです。特に最後にみんなで声を出して歌ったのがとても楽しかったです。写真をもぞう紙の上に並べるゲームもとても楽しかったです（33歳女性）
- ・マスメディアの新聞・ラジオ・テレビを見ておもしろかったです（23歳女性）
- ・メディアについて知らないこともあったので勉強になった。ゲバゲバ90分を初めて見た。画像が白黒だった（27歳男性）
- ・参加型で自分で考え、話し合うことや、一緒に声を出すなどがよかったです（33歳男性）
- ・クイズの穴埋めで話し合うことがとても良かった（23歳男性）
- ・メディアというものの認識が出来ておもしろかったから。・サームの生歌&レッスン（ハーモニ）が楽しかった。とても素敵でした。（私は音楽が好きなので。）（35歳女性）
- ・図の作成に関わったので埋められていくのを見るのが楽しかった（18歳男性）
- ・歌が上手かった（21歳女性）
- ・歴史の勉強はきょうみがわきました（19歳女性）
- ・音楽に興味はないが音程の大切さを知った（29歳男性）

第三回オープンキャンパス（見沼たんぼ編）

内容

時間	項目	内容
1000	現地でスタッフ・ボランティア準備開始	横断幕やのぼり、ご飯炊きの火おこし、ビニルシート
1100	1100 あいさつ・オリエンテーション・グループ分け 引地達也 1115 見沼たんぼの説明 小林節子 1125 昼食の準備開始 1200 昼食 1240 ゲームスタート 1 わら投げ 2 においあてゲーム 小林節子 1340 分かち合い、アンケート記入など 引地達也 1400 送迎開始あいさつ、グループ分け 引地達也	4チームに分別 説明の後、クイズ方式で見沼たんぼを学ぶ
1125	昼食の準備開始	スケジュール、飲み物、ごはん、カメラの件、次回案内
1200	昼食	各テーブルでチームリーダーの指名（ぬいぐるみで印付け）
1245	ゲーム わら投げ大会	わらを60センチの長さで束にし、片一方を水に浸した状態のものを、稲刈りの終わったたんぼに投げ込むゲーム。 各チーム4人で、対抗戦を行う

		各チームから選出した 4 人があぜ道に並び順番に投げ入れ、1-4 位を決める。その繰り返しで、すべて 4 人が終わったところで、順位を合計し最も数字が低かったチームが優勝。 個人戦も行う
1315	散策	用水路沿いに樹木や鳥を見ながら散策、写真撮影。寒さのため 20 分程度で終了
1330	まとめ・感想文記入	屋外で記入版を使い記入
1400	終了・修了証授与	近隣の「のらんどめぐり」からの参加者に対して授与式

開催風景





感想集計

質問 1		質問 2		質問 4		年齢・性別	
とても楽しかった	24	とても勉強になった	19	とても勉強したいと思った	14	年齢 回答者数	21
まあ楽しかった	7	まあ勉強になった	9	まあ勉強したいと思った	7	平均 年齢	42
それほど楽しくなかった	0	それほど勉強にならなかった	1	あまり思わなかった	1	男	17
全然楽しくなかった	0	全然勉強にならなかった	0	全然思わなかった	0	女	9
その他	0	その他	2	その他	9	未回 答	5

感想の一例

- ・みんながたくさんいた (34 歳男性)
- ・普段見ないような場所(景色)に触れられた (18 歳男性)
- ・わら投げを楽しめて良かった (27 歳男性)
- ・自然に触れ合いながら食と生きる事を何かと考えられたから (48 歳男性)
- ・わら投げが遊んで投げて楽しかったです (23 歳女性)
- ・ごはんとけんちん汁がおいしかったです (男性)
- ・田んぼについて、よく知れた (19 歳女性)
- ・けんちん汁がおいしかったです (23 歳男性)

第三回オープンキャンパス (和光市街歩き編)

内容

1 日目

1000-1050	オリエンテーション	オープンキャンパス説明 自己紹介、グループ決め クイズコミュニケーション 和光市にまつわるクイズ3題
1050-1100	休憩	
1100-1150	・フィールドワーク説明 引地	説明内容 グループごとに行動

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義 井上明次さん 「和光市の魅力について」 引地 ・ コースの説明 ・ 抽選会 	<p>ABC を探訪し、グループごとに ABC を「見出し」「写真」「本文」で表現する</p> <p>ABC それぞれの候補地をくじ引きで決める</p> <p>和光市全体・魅力の説明</p> <p>観光地の説明</p> <p>新聞の書き方説明→ひな形を提示</p>
1130-1300	観光地スタート・昼食ほか	お弁当の提供
1400-1420	各グループ検討	グループごとに分かれ検討 それぞれの役割を決定
1420	ふりかえり発表	

観光地の想定場所

- (1) 長照寺おおいちょう（わこうっち生誕の地/わこうっちの石像）小田部さん
- (2) 和光歴史散歩—川越街道を歩いて清龍寺不動院（なぞの洞窟）・白子宿へ 野口さん
- (3) 理研ギャラリー（電話確認済み。HPより予約可）とニホニウム通り（プレート&モニュメント）
- (4) 租税資料室（見学自由、事前連絡）・SL・周辺 関口さん
- (5) 民家園で遊ぼう・竹もう—新倉ふるさと民家園 井上さん
- (6) 樹林公園の樹木と野草を楽しむ 浅野さん

2日目

1000-1015	オリエンテーション	本日の流れ インターネットなどで検索し、昨日のふりかえり、作業開始
1015-1150	広報紙作業	広報紙作業 必要に応じて和光市内で隠れたスポット探し、取材
1150-1300	グルメスポットで昼食	グループごとに昼食 サブティーチャージ
1300-1350	公民館に戻り、アウトプット制作	それぞれのグループで模造紙に魅力を作成、写真印画
1350-1400	休憩	
1400-1430	発表・まとめ	各グループで発表 まとめ 感想・修了証

グルメスポットの想定場所

レストランミッシェル、アルコイリスカフェ、大鷹ラーメン、ファーナウ、チャパティ

・今回のプログラムのプロセス

説明⇒取材⇒記事作成（模造紙・写真）⇒発信

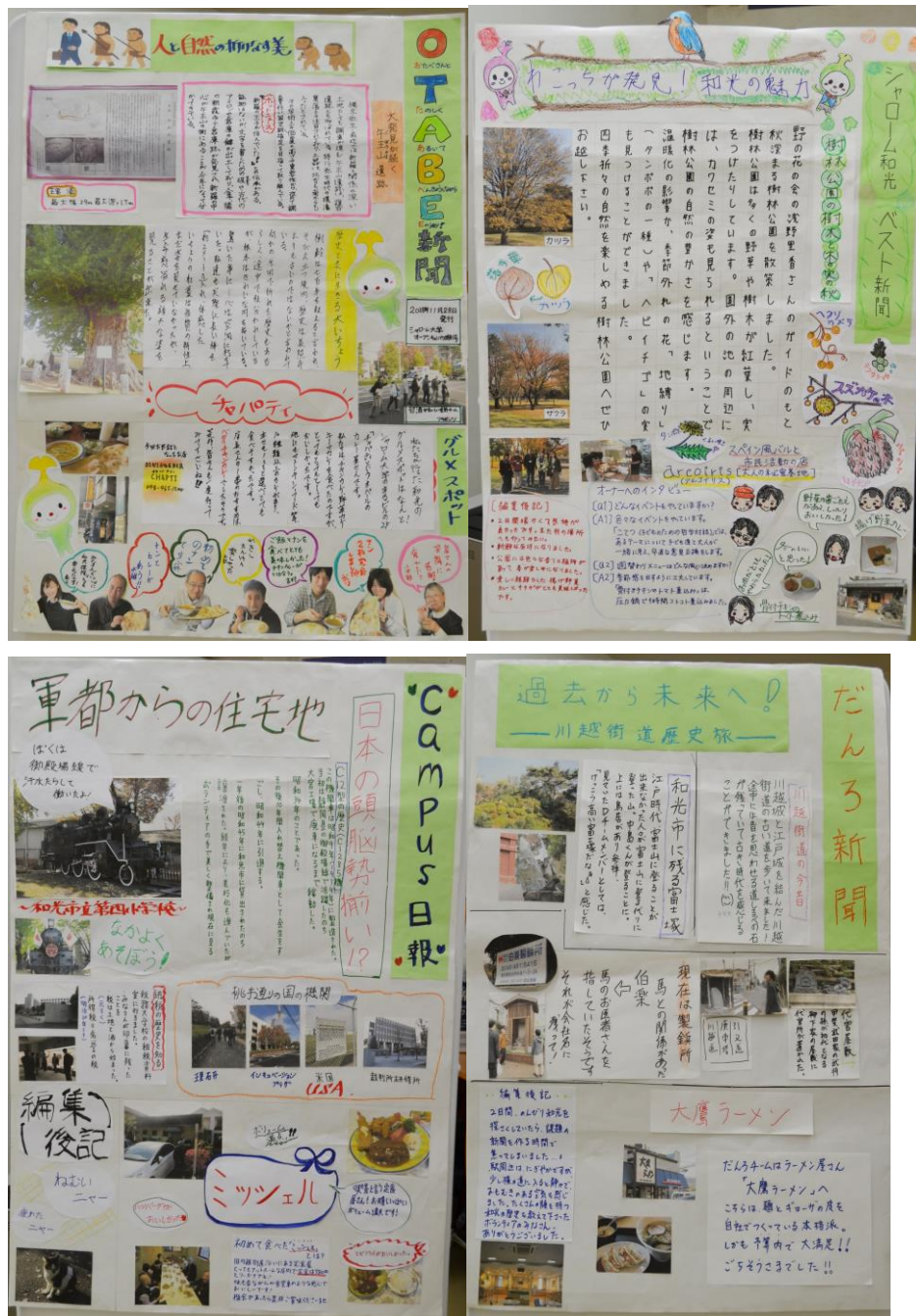
和光市の観光地に行き、取材や撮影をします。

和光市のグルメは同市内選りすぐりの飲食店で実際に飲食し、レポートを書く

各グループで模造紙で書き、発表

それぞれの模造紙で書きやすいように、事前にフォーマット化しておき、サブティーチャーが先導しながら完成させる→ネット上で公開

作成した新聞





開催風景





感想集計

質問 1		質問 2		質問 4		年齢・性別	
とても楽しかった	29	とても勉強になった	26	とても勉強したいと思った	23	年齢回答者数	28
まあ楽しかった	3	まあ勉強になった	4	まあ勉強したいと思った	6	平均年齢	40
それほど楽しくなかった	0	それほど勉強にならなかった	1	あまり思わなかった	1	男	20
全然楽しくなかった	0	全然勉強にならなかった	0	全然思わなかった	0	女	11
その他	1	その他	2	その他	3	未回答	2

感想の一例

- ・一人で行動することが多くなってしまい、(人数不足)少し残念です。が！！和光の歴史や街を知ることが出来、とても貴重な時間でした (35 歳女性)
- ・地形、遺跡を見て回り、プラタモリみたいでした。2 日間あって内容も多く、知ることが多かったです (39 歳男性)
- ・新聞を作るためのツアーと新聞をまとめる作業が楽しかった。グルメの企画も良かった (55 歳男性)
- ・年長者の世代でなければわからないよな話 (例：柳下家について) などを聞いた (18 歳男性)
- ・楽しく活動できた (20 歳男性)

- ・共同作業で協力し合えた（48 歳男性）
- ・和光市は昔、軍都であることがわかった（29 歳男性）
- ・和光樹林公園の紅葉がきれいです（23 歳女性）
- ・りょうりとさんぽがよかったです（19 歳女性）
- ・新聞を作って楽しかった（56 歳男性）
- ・おかたい話が多かった（21 歳女性）
- ・5つのチームでそれぞれ違うお店に行ったので、ほかのお店で食べれなかった（23 歳男性）
- ・本気で散歩をし、普段目に付かないところにも目がついていった（42 歳男性）

第四回オープンキャンパス

内容

実践教育ステージ 第四回目 2019年1月19日

働くための学習 ～ 仕事に役立つ資格、PCスキルアップ ～

講義の狙い

働くための意欲を上げると共に、仕事の種類や役立つ資格について学びます。また、実際にPCを用いて名刺を制作します。

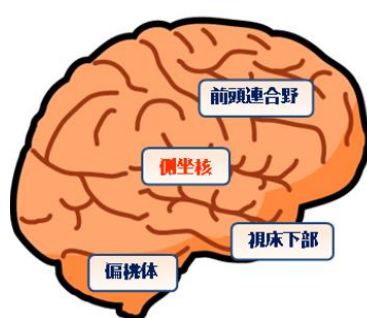
<パート1>気持ちがアがるワークショップ

1. やる気（モチベーション）とは

達成したい目標に向けて行動を起こすと共に、その行動を支える力
＝目標に向かうエネルギーの源泉

2. やる気と脳の関係

やる気は脳で作られることが最近の研究で分かってきました。



- 側坐核（そくざかく）
→モチベーションの脳
- 前頭連合野（ぜんとうれんごうや）
→意思、創造の脳
- 視床下部（ししょうかぶ）
→欲の脳
- 扁桃核（へんとうかく）
→好き嫌いの脳



3. やる気のスイッチである“淡蒼球”

やる気アクセルを“オン”にするスイッチが
「淡蒼球（たんそうきゅう）」です。

4. 淡蒼球を動かすのは“身体”

「やる気があるふり」は脳をだます！脳を“だまして”やる気を出す！

5. 淡蒼球の動かし方

- ①とにかく動く
- ②ごほうびを使う
- ③なりきる
- ④いつもと違うことをする



6. 淡蒼球の考え方のポイント

スイッチがきれる前に一工夫してやる気スイッチを（淡蒼球）を入れっぱなしにすることが重要！

<みんなでやってみよう①>

淡蒼球を動かしてやる気スイッチを入れよう！

「やる気MAX！」と言ったら、体を動かしてみてください。
動かし方は、自由です！

7. やる気とポジティブイメージ

ポジティブイメージがやる気に与える影響は…

- ・ポジティブイメージに脳がだまされてやる気が出る
- ・新しいアイデアを生み出すやる気が出る
- ・プラス思考になってやる気が出る



<みんなでやってみよう②>

ポジティブな言葉をたくさん書き出してみよう

ポジティブで明るいイメージの言葉であれば、なんでもかまいません。できるだけたくさん書いてみましょう！

●ポジティブな言葉の例

明るい・きれい・楽しい・きらきら・元気・面白い…などなど

8. ほめられるとやる気が出る！

人からほめられると、「自己肯定感」が高まります。自己肯定感とは、自分の存在や生きることに對して、前向きに考える気持ちであり、物事を肯定的にとらえ、何事もチャレンジする気持ちです。

●人からほめられるためには

- ・自分自身が「ほめ上手」になろう！
- ・ほめ上手になると、人から愛される！
- ・ほめ上手は、愛され上手！

9. ほめ上手になるために

- ①ちょっとしたこともほめる！
- ②まずほめる！
- ③プラスの言葉に言い換える！<例>うるさい人→にぎやかな人
- ④「すごい」「さすが」を口ぐせにする！
- ⑤ほめる時は、愛情を持って！

10. <参考>ほめ言葉

- ①明るいね！
- ②笑顔が素敵！
- ③元気がいいね！
- ④面白いね！
- ⑤礼儀正しいね！
- ⑥おしとやかだね！
- ⑦優しいね！
- ⑧力強いね！
- ⑨●●が上手だね！
- ⑩服が似合ってるね！



<みんなでやってみよう③>

2人1組でほめ合ってみよう！

※「ほめ言葉」を参考にしてもOK！

明るい気持ちで、どんなことでも良いので、ほめてあげましょう！

<パート2>ベストマッチ資格診断

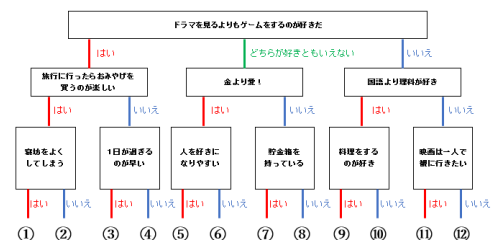
1. ベストマッチ資格診断チャート

ベストマッチ資格診断チャートをやってみよう！

2. 資格診断結果：別紙参照

3. 各資格解説：別紙参照

簡単！ベストマッチ資格診断チャート



<パート3>スタイリッシュ名刺制作

1. イラストレーターとは

雑誌やチラシ、ポスターなどをつくる「クリエイティブ職」必須のソフト

2. 好きな資格を選んで名刺を作る

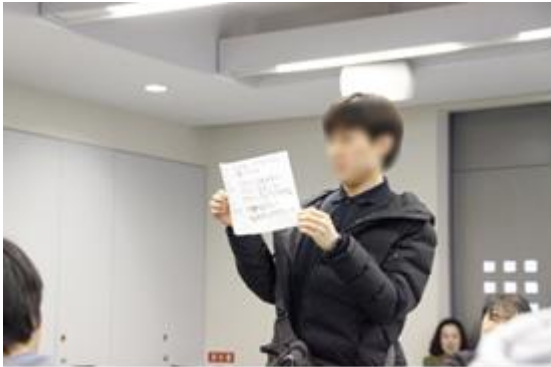
別紙「名刺の作り方」を見ながら、イラストレーターで名刺を作成しよう



3. 名刺づくりの間にビジネスクイズ

4. 名刺交換をしてみよう

開催風景





感想集計

質問 1		質問 2		質問 4		年齢・性別	
とても楽しかった	14	とても勉強になった	13	とても勉強したいと思った	10	年齢回答者数	12
まあ楽しかった	1	まあ勉強になった	2	まあ勉強したいと思った	2	平均年齢	32
それほど楽しくなかった	0	それほど勉強にならなかった	0	あまり思わなかった	1	男	8
全然楽しくなかった	0	全然勉強にならなかった	0	全然思わなかった	0	女	6
その他	0	その他	0	その他	2	未回答	1

感想の一例

・愛とか金とか、旅行に行ったり映画を一人やデートで観に行ったり、数学や英語、国語、理科、社会などの授業、貯金箱も大切にすること、1日はあっという間に終わるということがわかった（19歳男性）

・和気あいあいと、みんなが、話をして笑顔が多かったと思います。不安要素がなくて安心して参加できました。大槻さんのお笑いの人みたいで楽しかったです（49歳女性）

・元気よく、真面目に実践を学ぶ場面が多くとても勉強になりました（44歳男性）

・おおつきさんが楽しい人だから（女性）

・講師が明るい（30歳男性）

・めいしこうかん（19歳女性）

・全体の流れ、元気の出る声、参加と体験できる内容、とてもおもしろかったです（30歳男性）

・イラストレーターを初めて使ったが、使いやすかった。イラストレーターの講座があったら出たい（27歳男性）

第五回オープンキャンパス

内容

実践教育ステージ 第五回目 2019年2月11日

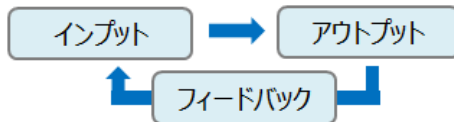
ビジネスコミュニケーション ～ 素敵に交わって話し合う ～

講義の狙い

- ・ 社会での人間関係がよきものになるよう「行動」と「言葉」から考え、インプット→アウトプット→フィードバックの流れで実践します。
- ・ 相手を承認するコツを試しつつ、自己も肯定していきます。

<パート1> 相手を認めるコミュニケーション「ストローク」

1. 社会での自分の行動



やってみよう！
それで OK！
次はこうしてみよう！

2. 社会での人間関係

家族や友人とは異なる（親しくない人ともコトを成していく関係）
⇒スムーズなコミュニケーションはやりやすさにつながります。
相手が受け取りやすいように自分の行動やことばを工夫しよう！

3. 承認欲求と自己肯定

人には認められたいという「承認欲求」があります。
承認は「自己肯定」につながります。
自己肯定は、ものごとを肯定的・前向きにとらえる力になります。

4. ストローク ～相手の存在を認める働きかけ～

- ・ プラスのストローク
- ・ マイナスのストローク
- ・ ゼロストローク



プラスのストロークはプラスで返ってきやすい。
相手を認め、自分も認めよう！

<パート2> 行動

1. 表情

目の表情と口元の表情 目の表情は心の表情
スマイルカードを作成しよう！
（自分がイイナなと思う表情、思わず笑顔になるモノ・コトを記入）

2. 挨拶

あ…あかるく
い…いつも
さ…さきに
つ…つづけて

笑顔で
目をみて
聞こえる声で

3. お辞儀

姿勢 背筋を伸ばす／手は横または前／かかとをつける

角度

15度…会釈

30度…敬礼・普通礼

45度…最敬礼



リズム

- 0 相手と目を合わせる
- 1 サッと腰を折る
首を曲げない。目線は相手の足元
- 2 一瞬“ためる”
心の中で「よろしく！」
- 3 ゆっくりもとに戻す
相手への敬意をかみしめながら
- 4 相手と目を合わせる
もう一回「よろしく！」の気持ちを込めて

同時礼と分離礼

同時礼…言葉とお辞儀が同時

分離礼…言葉の後に辞儀

4. 名刺交換

名刺は自分／相手の分身。大切に扱おう！



① 準備する

すぐに名刺入れから取り出せるようにしておく。

目下の人または訪問者から先に名刺を出す。

② 渡す

名刺を片手（右手）で持ち、もう片手を添えて相手に差し出す。

社名・部署名・氏名を名乗る。「〇会社〇部の〇〇と申します」

※名刺の文字は相手に向いているように

※相手の目をみて

※相手の名刺の高さよりも低い位置＝謙虚さを表す

③ 受け取る

受け取るだけの場合は両手で受け取る。

同時に差し出す場合はお互い右手で差し出し、左手で受け取る。

受け取ったら、すぐに右手を添える。

「頂戴いたします。よろしく願いいたします」

※指が文字にかからないようにする

※名刺は胸より上の高さをキープ

④ 受け取った後の処理

すぐにはしまわず、着席したテーブルに置いた名刺入れの上に置く。

5. あいづち

相手の存在や話を受け止めるストローク。「関心があります」「聞いています」「話を受けとめています」「もっと聞きたいです」が示せる。

・相手の目を見る（ずっとでなくてもOK）

・うなづく（聞いていることを示す）



・受け止める言葉をはさむ

「はい」「そうですか」「そうなんですね」「それはいいですね」等
△くりかえし「はいはいはいはい」「なるほどなるほど」
△イマドキ? 「なるほどですね」「まじっすか!」「ホントですか?」

<パート3> 言葉

1. 言葉のもつ力

言霊 (ことだま)



言葉は自分の心があらわれる。

言葉は自分で選べる。

口から出たら後戻りできない (しかしフォローはできる)

自分が発する言葉は、自分が一番聞いている。

…どんな言葉を使いたいですか?

ていねいに
プラス表現で
感情で反応しない

2. エンジェル先輩とデビル後輩

開催風景



感想集計

質問 1	質問 2	質問 4	年齢・性別
------	------	------	-------

とても楽しかった	14	とても勉強になった	15	とても勉強したいと思った	12	年齢回答者数	15
まあ楽しかった	1	まあ勉強になった	0	まあ勉強したいと思った	3	平均年齢	36
それほど楽しくなかった	0	それほど勉強にならなかった	0	あまり思わなかった	0	男	7
全然楽しくなかった	0	全然勉強にならなかった	0	全然思わなかった	0	女	8
その他	0	その他	0	その他	0	未回答	0

感想の一例

- ・名刺交換・ストロークなど就職していくうえで大事だと思った（37歳男性）
- ・自分たちが実践練習やレクリエーションを行うのが良かったです（33歳男性）
- ・本で身に付ける知識だけでなく、実践を通して体験することができた（33歳男性）
- ・人との対話は楽しいです（43歳男性）
- ・あいづちの重要性（ないだけで違和感を覚えた）（19歳男性）
- ・色々な考え方を知ることができた（32歳男性）
- ・むずかしい言葉もありましたが、その意味も知れてよかったです（19歳女性）
- ・エンジェル先輩の役をやったことです（21歳女性）
- ・先生の笑顔と明るいお声とても元気を頂きました（49歳女性）
- ・体系的にまとまったビジネスコミュニケーションを学べる機会はなかなか無いものです。（新入社員時代以来?!）忘れていたことも多く大変勉強になりました（48歳女性）
- ・ボールのキャッチボールがコミュニケーションと同じであるという事が、とても分かりやすかったと思う（42歳女性）

2 連携協議会の開催

詳細は（2）で記載

3 コーディネーターの視察及び調査

詳細は（3）で記載

4 最終報告会

（1）最終報告

これら本事業に関する最終報告会は2月26日に和光市中央公民館で行われた。最終報告は本事業コーディネーターの引地達也が行った。事業が行われる社会的背景から文部科学省の方針などを紹介しながら本年度が初年度であることを強調し、初めての挑戦への喜びとともに、プログラムを作る際の苦悩なども伝えた。オープンキャンパスの説明ではパワーポイントで講義風景の様子の写真や紹介動画を示しながら、実際の取組みを紹介した。

またオープンキャンパスの基本構成が午前始まり昼食をはさんで午後終わるのを基本にしていることを、「関係性の構築」を主眼としたカリキュラムの一環に位置付けている

ことを説明した。つまり、コミュニティが比較的狭い方が新しい仲間を得るために「ごはんを一緒に食べること」は重要だと考え、必ず昼食をグループで行うこととし、初めての環境にも慣れるような工夫を凝らした結果、午後からうまく打ち解けられる参加者も見られた。

和光市でのフィールドワークの紹介では実際に制作した新聞を示し、それぞれが能力に合わせて役割を果たすプロセスが短時間でもできることが分かり、この新聞づくりプログラムは非常に有効であると説明した。

オープンキャンパス以外にも調査研究として特別支援学校の訪問や、18歳以降の障害者の学びとして、私立の特別支援学校と福祉型専攻科の状況を説明したうえで、それぞれの事情を把握することができ、知見を得ることができたことを報告。全国の特別支援学校高等部の教員向けにメディア教育に関する調査実施とその結果として知的障がい者に対するメディア教育の機会もガイドラインもないことが分かったことを伝えた。

そのうえで総括として、8点を説明した。

- ・学びの可能性はますます広がる
- ・18歳以降の知的障がい者へのアクセスが少ない
- ・和光市や地域が一体となって学びに関する啓もうをする必要がある
- ・地域連携の重要性
- ・精神障害者の「学び」のニーズは高い
- ・「訓練」とは切り離し「学びあい」でよりよい人生に向けた機会として
- ・授業は1日も有効（一緒にごはんを食べる機会など）
- ・半日などで簡易バージョンも必要

来年度に向けては、上記の課題を克服することはもちろん、具体的には他地域での展開や医療ケアが必要な18歳以降の方々への学びにも取り組むこととした。

(2) 参加者コメント

(3) 総括コメント

総括コメントは連携協議会の九里委員が行った。第一回オープンキャンパスの授業を担当した経験から、対象者が初めてであり大いに戸惑ったが貴重な経験だったおし、特に自然科学は不思議であるから学びになると強調した。

さらに以下の2点について、今後の方向性として重要であると示唆した。

◆大学の3ポリシー（文科省）を障がい者とともに学ぶ学校について考える。

ディプロマポリシー（卒業の認定に関する方針）

⇒ 例えば、「人生を豊かに楽しむための知識、能力が身に付いている。」

カリキュラムポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

⇒ 例えば、「人文、社会、自然に関する幅広い教養、職業に関する科目を置く。」

⇒ 例えば、「障がいの特性に応じた授業方法を工夫する。」

アドミッションポリシー（入学者受け入れに関する方針）

⇒ 例えば、「学ぶ意欲がありながら障がいが理由で一般教育機関を利用しにくい人。」

◆教育機関としての学習支援ポリシーを考える。

ラーニングサポートポリシー（学習支援ポリシー）

⇒ 例えば、「個別的な対応を行う学習支援システムを導入した学習を行う。」

ラーニングサポーター（学習支援員）の育成

例：サブティーチャー 講義、グループワークの学習支援を行う人

グループワーク	少人数グループによる学習形態
フィールドワーク	地域活動への参加、ボランティアとの交流 (見沼たんぼ、和光市観光スポット)
アクティブラーニング	実践的な学習形態 (和光市観光スポット新聞製作、名刺制作など)
ホームワーク	今後の課題、自宅学習システム、反転授業など

(2) 連携協議会の開催及び効果的な実施体制や関係機関・団体等との連携モデルの構築

①連携協議会の構成員

氏名	所属・役職等	備考欄
九里秀一郎	浦和大学総合福祉学部教授	
小林節子	特定非営利活動法人見沼じゃぶじゃぶラボ代表	
唐沢隆弘	東京リーガルマインド執行役	
大槻一敬	ケアメディア副編集長	
高橋基成	元東京都・埼玉県特別支援学校教諭	
田中瑛	東京大学大学院・学際情報学府学際情報学博士課程	
佐光紀子	翻訳家(法定外シャローム大学教授)	

② 連携協議会事務局構成員(4. ②の担当者の兼務可。また、事務作業スタッフを除く。)

氏名	所属・役職等	備考欄
引地達也	一般財団法人福祉教育支援協会 上席研究員	
白壁昌司	一般財団法人福祉教育支援協会 事務局	
最上千都	法定外シャローム大学教授	
加藤のぞみ	法定外シャローム大学事務局	
杉本頼久	一般財団法人福祉教育支援協会	

③連携協議会の開催及び効果的な実施体制・連携モデルの構築の実施経過

(具体的な内容は6.(2)④に記載すること。)

4月	連携協議会委員候補者へのお声かけ
5月	連携協議会委員候補者へのお声かけ
6月	連携協議会委員候補者へのお声かけ
7月	連携協議会委員候補者へのお声かけ
8月	8月10日 第一回連携協議会開催
9月	9月18日 第一回オープンキャンパス実施(一部連携協議会委員出席)
10月	10月11日 第二回オープンキャンパス実施(一部連携協議会委員出席) 10月17日 第二回連携協議会開催
11月	11月13日 第三回オープンキャンパス(その1)実施(一部連携協議会委員出席) 11月27日 第三回オープンキャンパス(その2)実施(一部連携協議会委員出席)

	11月28日 第三回オープンキャンパス(その2)実施(一部連携協議会委員出席)
12月	12月13日 第三回連携協議会開催
1月	1月19日 第四回オープンキャンパス実施(一部連携協議会委員出席) 1月23日 第四回連携協議会開催
2月	2月11日 第五回オープンキャンパス実施(一部連携協議会委員出席) 2月26日 第五回連携協議会開催
3月	

④具体的な研究内容

(連携協議会における議論内容、検討結果等を記載するとともに、「どのような者と連携すると効果的な実施体制・連携が得られるか」等に関する分析・検証を行い、具体的な実施体制・連携等のモデルを提示すること。その際、自立や社会参加・就労等に関わる具体的なデータ・調査結果・事例等のエビデンスに基づく事業成果の分析・検証結果もあわせて記載すること。なお、開発結果を踏まえ今後さらに検討すべき点や課題等についても触れること。)

第一回連携協議会

<開催日時>2018年8月10日(金)14時~16時

<場所>法定外シャローム大学

<出席者>

連携協議会委員

九里秀一郎・浦和大学総合福祉学部教授

小林節子・特定非営利活動法人見沼じゃぶじゃぶラボ代表

唐沢隆弘・東京リーガルマインド執行役員

大槻一敬・季刊ケアメディア副編集長

高橋基成・元東京都特別支援学校教諭

田中瑛・東京大学大学院・学際情報学府学際情報学博士課程

(佐光紀子委員(翻訳家)は欠席のため前日に事前説明)

コーディネーター

引地達也・法定外シャローム大学学長・一般財団法人福祉教育支援協会専務理事

主催者

最上千都・一般財団法人福祉教育支援協会理事・就労移行支援事業担当

萩原由佳子・一般財団法人福祉教育支援協会支援員兼スポーツメンタルコーチ

加藤のぞみ・法定外シャローム大学事務局

(最上義(一般財団法人福祉教育支援協会代表理事)は欠席)

(白壁昌司(一般財団法人福祉教育支援協会理事)総務担当は欠席)

<式次第>進行・コーディネーター引地達也

1:あいさつ 法定外シャローム大学学長 引地達也

2 自己紹介

3 事業概要の説明 法定外シャローム大学学長 引地達也

4 オープンキャンパスに関する検討

日程、内容、アンケート・評価ポイント、ボランティア、ロジスティクス等
第三回オープンキャンパス(フィールドワークにつきまして)

- 5 調査研究の方向性について
- 6 今後の日程確認・事務連絡等

検討内容

連携協議会の各委員は各分野から構成されており、コーディネーターの引地や運営母体の一般財団法人福祉教育支援協会とのつながりがある各領域の有識者をお願いをした。お互いが初の顔合わせとなった第一回連携協議会では和やかな雰囲気の中で自己紹介が行われた。その後、引地から正式に事業概要の説明を文部科学省に提出した提案書に基づき行い、法定外シャローム大学「みんなの公開講座 オープンキャンパス」開催内容に関する検討会が行われた。

主な議論内容は「いかにオープンキャンパスが参加者に学びの喜びを伝え、その後の人生をより良いものにしていくきっかけにすることができるか」ということであるが、ほとんどの委員が専門的見地を持っているが、障がい者の生涯学習についてのイメージは前例がないことから乏しい状態ではあるが、今後の取組の中で見識を高めていくこととした。

オープンキャンパスの開催に向けては引地のこれまでの特別支援学校卒業後の選択の一つである名古屋の法定外見晴台学園大学での講義や全国の専攻科を集めて行った講義を参考にして、「授業は1コマ50分」「10分休憩で全4コマ」「最後は30分程度で振り返りと感想」「講師の話は15分まで」「アクティブラーニング形式を心掛ける」「教室は5人グループを1つの島とするスタイル」「1島には必ず1人以上のサブティーチャー・支援者がつく」こととし、1回目の授業は自然科学と社会科学のアプローチで学問の面白さを知ってもらう講義とし、2回目は歌やお笑い番組などのメディアを切り口にしたコミュニケーション学習を行うと説明した。さらに3回目の関わりあいステージのフィールドワーク開催に向けて各委員からは授業のテーマなどの様々なアイデアが出された。

第二回連携協議会

<開催日時>2018年10月17日(木)14時~16時

<場所>法定外シャローム大学

<出席者>

連携協議会委員

九里秀一郎・浦和大学総合福祉学部教授

小林節子・特定非営利活動法人見沼じゃぶじゃぶラボ代表

唐沢隆弘・東京リーガルマインド執行役員

大槻一敬・季刊ケアメディア副編集長

高橋基成・元東京都特別支援学校教諭

田中瑛・東京大学大学院・学際情報学府学際情報学博士課程

佐光紀子・翻訳家

コーディネーター

引地達也・法定外シャローム大学学長・一般財団法人福祉教育支援協会専務理事

主催者

加藤のぞみ・法定外シャローム大学事務局

<式次第> 進行・コーディネーター引地達也

1 近況報告 引地達也

- 2 第一回オープンキャンパスについて 実施状況と反省点、課題
- 3 第二回オープンキャンパスについて 実施状況と反省点、課題と課題の克服
- 4 第三回オープンキャンパスに関する検討
日程、内容、アンケート・評価ポイント、ボランティア、ロジスティクス等
- 5 全国調査の結果について
- 6 今後の日程確認・事務連絡等

検討内容

主に第一回と第二回のオープンキャンパスの実施状況と反省点を示し、課題について話し合った。受講者のアンケート調査を見る限り、概ね楽しく学べたという反応であることは確認でき、当初の講義の長さやアクティブラーニングの要素を入れた内容は基本的に有効であるとの感触を得た。一方で当初予定していた「特別支援学校3年生」特別支援学校卒業生については、就労をしている場合には連絡手段がないために、オープンキャンパスの情報を提供できないことが分かった。在校生については実習や学校に定められたカリキュラムにより校外の行事に参加するにはハードルが高いことが分かった。

その結果として、多くの参加者は就労移行支援事業所を利用する精神障がい者であり、彼・彼女らの学びのニーズが高いことも判明した。

この状況を勘案しながら、第三回のオープンキャンパスは初めてのフィールドワークであり、内容などの計画を提示した。

また、本事業採択前に実施し始めた特別支援学校の教員に対する全国調査の結果を資料とともに示した。

第三回連絡協議会

<開催日時>2018年12月13日(木)14時~16時

<場所>法定外シャローム大学

<出席者>

連携協議会委員

九里秀一郎・浦和大学総合福祉学部教授

小林節子・特定非営利活動法人見沼じゃぶじゃぶラボ代表

唐沢隆弘・東京リーガルマインド執行役員

大槻一敬・季刊ケアメディア副編集長

高橋基成・元東京都特別支援学校教諭

田中瑛・東京大学大学院・学際情報学府学際情報学博士課程

佐光紀子・翻訳家

コーディネーター

引地達也・法定外シャローム大学学長・一般財団法人福祉教育支援協会専務理事
事務局

加藤のぞみ・法定外シャローム大学事務局

<式次第> 進行・コーディネーター引地達也

- 1 近況報告 視察及びヒアリング等の結果について 引地達也
- 2 第三回オープンキャンパスについて 実施状況と反省点、課題

- (1) 見沼たんぼでのフィールドワーク
- (2) 和光市での街歩き
- 3 第四回オープンキャンパスについて
- 4 映像化とその展開について
- 5 今後の日程確認・事務連絡等

検討内容

コーディネーターの視察を受けて、特別支援学校高等部卒業以降の方々の学びについて、私立の特別支援学校の専攻科の事例を紹介、さらに医療ケアの必要な方々の学びも視野に置く必要を説明した。さらに映像化事業については、東京リーガルマインドの唐沢氏が「非常に有効なコンテンツであり、当社内のホームページで紹介していきたい」との見解を得て、本プログラムがすべてそろった時点で来年度に同社ホームページでの展開を検討することとした。

11月に行われたさいたま市緑区の見沼たんぼでのフィールドワーク、和光市での2日間にわたっての街歩きフィールドワークに関する反省と総括も行われた。

見沼たんぼについては、お米の解説をした後に見沼のクイズで歴史等を学んだ後にご飯を食べ、藁投げ大会を行う非常に盛り上がったこと。藁を触ったこともない人も多かったのが非常に面白かった。今回は就労移行事業所の方、OBの方、地元の農業を基本としたB型施設のらんどあぐりの方々も一緒に参加したとの報告。重度知的の方が多くあったが、少し大きい声を出してもたんぼなのでみなさんゆったりした気分で対応できた、などと総括した。

和光市のフィールドワークは、「和光で新発見、歩いて、見て、食べて、発信」とし、和光の観光名所に行き、グルメスポットに行き、そしてその模様を新聞に、壁新聞に書くと、と言う様な大きな流れで、5チームにそれぞれ和光市の市民ボランティアの人がリーダー、リーダー役というか先導役になって、そこに支援者がいて利用者がいる、というような流れで行ったと報告。新聞は1時間半くらい、2時間以内にやったものなので、それでも皆さんよくそれぞれ役割分担、本当に自閉傾向の強い子でも、絵をかいたり後ろのバックの線を引いたり、色んな役割をやって、結果みんなが参加しボランティアの方たちも大変ビックリしていた。利用者もボランティアさんの反応がすごかった印象であることを確認した。

また実践教育に関する内容の確認も行われた。

第四回連携協議会

<開催日時>2019年1月23日(水)14時~16時

<場所>法定外シャローム大学

<出席者>

連携協議会委員

九里秀一郎・浦和大学総合福祉学部教授

小林節子・特定非営利活動法人見沼じゃぶじゃぶラボ代表

唐沢隆弘・東京リーガルマインド執行役員

大槻一敬・季刊ケアメディア副編集長

田中瑛・東京大学大学院・学際情報学府学際情報学博士課程

佐光紀子・翻訳家

<コーディネーター>

引地達也・法定外シャローム大学学長・一般財団法人福祉教育支援協会専務理事

<事務局>

加藤のぞみ・法定外シャローム大学事務局

欠席 高橋基成・元東京都特別支援学校教諭

式次第 進行・コーディネーター引地達也

- 1 近況報告 引地達也
- 2 第四回オープンキャンパスについて 実施状況と反省点、課題
- 3 最終報告について
- 4 全体に関するコメント等
- 5 今後の日程確認・事務連絡等

検討内容

これまでの講義内容などを以下の項目で総括した。

1 講座の妥当性について

- ・50分×3・5コマ 15-20分の講義とワークの融合
- ・グループ形式 2-5人に対し1人のサブティーチャー

2 講義の内容案

「学んで何だ」「自然科学と社会科学からのアプローチ」「コミュニケーション」「メディアの歴史」「声を出すコミュニケーション」「田んぼにふれる」「ごはんにふれる」「仕事と資格」「モチベーション」「ビジネスマナー」「PCスキル」を再検討

3 障がい者への呼びかけ

「学ぶ」ことへの社会的資源がないことで、情報ツールを作っていくことが重要
→和光市の掲示板や広報紙など自治体との連携・メディア活用

4 市民との連携

市民ボランティアの参加により、市民側への啓発活動にも通じた。ノーマライゼーション社会のモデル構築に向けて市民との交わりもより広く演出する必要がある

5 DVD化に向けての編集方針の明確化

取組を広く知ってもらうためにOPキャンパスの様態を映像化しLECを窓口に配信する予定において、映像が「学ぶ意欲を高めるもの」「学べるもの」との方針が明確でないために、散漫な印象のコンテンツになってしまう

6 多様な障害への対応

18歳以降の学びについてコーディネーターの全国の専攻科や日本LD学会、研究会、実践の場の視察やヒアリングの結果、今後以下の点の取組が必要と考える

- ・医療ケアの方々への訪問教育
- ・全国の学びを求める方々との連携と協力体制の構築

第五回連携協議会

<開催日時>2019年2月26日(火)14時~16時

<場所>和光市中央公民館

<出席者>

連携協議会委員

九里秀一郎・浦和大学総合福祉学部教授

小林節子・特定非営利活動法人見沼じゃぶじゃぶラボ代表

唐沢隆弘・東京リーガルマインド執行役員

大槻一敬・季刊ケアメディア副編集長

田中瑛・東京大学大学院・学際情報学府学際情報学博士課程

<コーディネーター>

引地達也・法定外シャローム大学学長・一般財団法人福祉教育支援協会専務理事

<事務局>

加藤のぞみ・法定外シャローム大学事務局

欠席 高橋基成・元東京都特別支援学校教諭、佐光紀子・翻訳家

式次第 進行・コーディネーター引地達也

- 1 最終報告書案 引地達也
- 2 来年度事業について
- 3 各委員総括
- 4 最終総括 引地達也

検討内容

第五回オープンキャンパスの報告、最終報告会での総括の確認をし、各委員から総括のコメントをいただき、九里委員による最終報告会での総括コメントの確認を行った。

各委員のコメントは以下である

<田中瑛・東京大学大学院・学際情報学府学際情報学博士課程>

個人的な感想ですが、大学の若手の研究者の中でも「優しく教える」ことに苦慮している方は多いと感じています。今回のオープンキャンパスの講義はとても分かり易かった。この経験から、物事を分かり易く伝えるヒントを得た気がします。伝える相手のニーズに沿った伝え方を。これを学ぶことができました。

<唐沢隆弘・東京リーガルマインド執行役員>

私はこのオープンキャンパスの背景にある思想や開催の目的、開催結果は福祉関連の団体のみならず、広く一般の民間事業者にも発信していくべきだと思います。それが、今後の障がい者が活躍する社会づくりの礎をつくっていくのではないのでしょうか。

<大槻一敬・季刊ケアメディア副編集長>

このオープンキャンパスのカリキュラムは絶妙であったと思います。レクリエーション色の強い講座と学びの側面が強い講座を織り交ぜ、ともに「皆でコミュニケーションをとりなが

ら進める」というコンセプトを崩さなかった。だから、参加者の皆さまは学びという局面においても、「難しいのではないか」という拒否反応を示すことなく、全てのプログラムに前向きな気持ちで取り組むことができたのではないかと思います。

<九里秀一郎・浦和大学総合福祉学部教授>

私はこの連携協議会の後に行う「最終報告会」で総括のコメントをすることになっていますが、詳しくはそちらで話すとして、簡単に気づいた点をお話したいと思います。浦和大学では身体障がいの方が多いのですが、このオープンキャンパスでは精神障がいの方が多かったです。これは、私にとって大きな収穫でした。精神障がいの方との接し方についても、様々な気づきがあったからです。就労移行支援事業のフィールドからここまで学びという色を強くした取り組みは他にはないのではないのでしょうか。

(3) コーディネーター・指導者の配置やボランティアの活用方策等の開発

① コーディネーター・指導者

氏名	所属・役職等	備考欄
引地達也	福祉教育支援協会専務理事兼上席研究員・法定外シヤローム大学学長	

② 開発の実施経過

(具体的な内容は6.(3)③に記載すること。)

4月	事業実施に向けての準備（以下、細かな書類作成や面談などは省く）
5月	事業実施に向けての準備
6月	メディア教育に関する調査、事業実施に向けての準備
7月	7月20-21日 福祉型専攻科シャンティつくば「学びの作業所交流会」出席 7月21日 九里秀一郎浦和大学教授、小林節子 NPO 法人見沼じゃぶじゃぶラボ代表と検討開始 7月22日 オーストラリアの詩人メリンダ・スミスと障がい者と詩の制作に関する検討協議 7月22日 川越特別支援学校高階分校訪問 7月24日 群馬県教育委員会特別支援学校教員向け講演実施 7月全体 ・連携協議会の開催に向けての準備 ・オープンキャンパスの具体的実行に向けての準備 ・メディア教育に関する調査実施 ・視察と研究 ・必要な協力者とのつながりの構築、人的ネットワークの拡充
8月	8月2、3日 特別支援学校専攻科教育実践交流会（旭出学園） 8月8日 特別支援学校アンケート調査締切 8月10日 第一回連携協議会開催

	<p>8月24日 聖母の家学園視察</p> <p>8月25, 26日 全国専攻科実践研修講座（名古屋）</p> <p>8月全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携協議会の開催に向けての準備と開催 ・オープンキャンパスの準備 ・メディア教育に関する調査実施 ・視察と研究 ・必要な協力者とのつながりの構築、人的ネットワークの拡充
9月	<p>9月10日 旭出学園視察</p> <p>9月11日 埼玉県特別支援教育係、雇用推進課、和光市社会福祉協議会、ボランティアセンターほか訪問</p> <p>9月13日 ボランティア説明会</p> <p>9月18日 第一回オープンキャンパス開催 基礎教育ステージ1</p> <p>9月19日 第一回オープンキャンパス振り返る会</p> <p>9月22日 全国不登校情報センター訪問</p> <p>9月24日 日本キリスト教団埼玉支部「アーモンドの会」講演</p> <p>9月全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスの準備と開催、事後整理 ・広報に向けたアウトリーチ活動 ・コンテンツの検証 ・視察と研究 ・必要な協力者とのつながりの構築、人的ネットワークの拡充
10月	<p>10月11日 第二回オープンキャンパス開催 基礎教育ステージ2</p> <p>10月17日 第二回連携協議会開催</p> <p>10月26日 和光市ボランティアへの説明会</p> <p>10月28, 27日 山梨附属特別支援学校、桃花台学園視察</p> <p>10月31日 見沼田んぼフィールドワーク現地視察</p> <p>10月全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスの準備と開催、事後整理 ・広報に向けたアウトリーチ活動 ・コンテンツの検証 ・視察と研究 ・必要な協力者とのつながりの構築、人的ネットワークの拡充
11月	<p>11月6日 さいたま市緑区福祉課・社会福祉協議会訪問及び協議</p> <p>11月8日 和光市総合福祉会館で歌のイベントを主催・実施</p> <p>11月12日 和光市ボランティアとの打合せ</p> <p>11月13日 第三回（その1）オープンキャンパス開催 関わりあいステージ</p> <p>11月22日 和光市ボランティアとの打合せ</p> <p>11月23, 24, 25日 日本LD学会出席（新潟）、KINGO カレッジ新潟視察</p> <p>11月27日 第三回（その2）オープンキャンパス開催 関わりあいステージ</p> <p>11月28日 第三回（その2）オープンキャンパス開催 関わりあいステージ</p> <p>11月30日 見晴台学園大学視察</p>

	<p>11月31日 障がい者生涯学習支援研究会（名古屋市瑞穂区）</p> <p>11月全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークの準備と開催、事後整理 ・広報に向けたアウトリーチ活動 ・コンテンツの検証 ・視察と研究
12月	<p>12月5日 大出学園若葉高等学園視察（前橋市） （12月8, 9日 全国専攻科研究会和歌山大会＝大槻委員が代理出席）</p> <p>12月12日 NPO 法人地域ケアサポート研究所視察協議</p> <p>12月13日 第三回連携協議会開催</p> <p>12月26日 東京大学大学院との協議</p> <p>12月全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークの振り返りと反省 ・広報に向けたアウトリーチ活動 ・コンテンツの検証と研究 ・視察と研究
1月	<p>1月7日 国立精神・神経医療研究センター及び自宅に医療ケアが必要で学びを求める方への訪問・視察</p> <p>1月10日 和光市ボランティアと協議</p> <p>1月11日 全国特別支援学校連合会事務局と協議</p> <p>1月15日 理化学研究所を訪問・協議</p> <p>1月16日 埼玉県立蓮田特別支援学校（肢体不自由）訪問</p> <p>1月16日 埼玉県筋ジストロフィー協会・黒浜訓練センター訪問</p> <p>1月16日 NPO 法人のらんどめぐり訪問</p> <p>1月19日 第四回オープンキャンパス開催 実践教育ステージ1</p> <p>1月23日 第四回連携協議会開催</p> <p>1月26日 就労移行支援事業所チャオ上尾訪問</p> <p>1月全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業並びに各講座についての検証 ・広報に向けたアウトリーチ活動 ・コンテンツの検証と研究 ・視察と研究
2月	<p>2月1日 在宅の医療ケアの必要な方への訪問</p> <p>2月9日 シャンティつくば研究発表会出席</p> <p>2月11日 第五回オープンキャンパス開催 実践教育ステージ2</p> <p>2月14日 福祉型専攻科エコール神戸訪問</p> <p>2月15日 社会福祉法人一麦会訪問（就労継続支援B型ポズック）</p> <p>2月22日 宮城県気仙沼市の障害者の母のグループ、本吉絆つながりたい訪問・協議</p> <p>2月25日 医療ケアの必要な方への「学び」に関するアンケート調査</p> <p>2月26日 第五回連携協議会開催</p> <p>2月26日 最終報告会開催</p>

2全体	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業並びに各講座についての検証 ・最終報告書の作成 ・広報に向けたアウトリーチ活動 ・コンテンツの検証と研究 ・視察と研究
3月	

③具体的な内容

(コーディネーター・指導者の配置やボランティアの活用方針に係る開発結果等を記載すること。また、コーディネーター・指導者の適性や人材配置・活用のモデル等を具体的に提示すること。その際、「どのような専門性を有する者がコーディネーター・指導者の役割に適しているか」、「具体的にどのように配置・活動すべきか」等に関する見解もあわせて記載すること。なお、開発結果を踏まえ今後さらに検討すべき点や課題等についても触れること。)

本事業はコーディネーターが中心となり、メディア全般のコンテンツを扱うスタッフや福祉関連スタッフや広報スタッフ、ボランティアの各担当に指示を出し実行する形となった。

本事業は「障害者の生涯学習」という真新しい概念の取組みであることから、まずは社会への啓もうが必要であり、コーディネーターは社会において関連する社会資源の把握が必要であることから、現場の視察と関係者との対話の積み重ねが必要である。それらの対話を重ねることで、実行する事業の精度につながってくる。

まだ見ぬ受講生を発掘するために、今回の教育の対象である「特別支援学校」と、コーディネーターがこれまでの仕事でベースとしてきた「就労移行支援事業所」に対する呼びかけを基本とした。オープンキャンパスの受講生や各種現場から「障害者の学び」についての実際の反応を知ることができた。

一方で受講生に関しては、機体していた特別支援学校ではタイトな学校行事のために受講は難しい状況であったが。結果的に就労移行支援事業所の精神障害者からの参加が多く、精神障害者が学びたい意志や学びのニーズをうかがうことができた。

本事業を進めるにあたっての人員配置は以下である。

【基本的な人員配置について】

統括 引地達也コーディネーター

広報・メディア担当 大槻一敬及びボランティアの広報担当

総務 加藤のぞみ他2人

財務経理 杉本頼久他1人

この事務局を基本として、

講義においては、1-5人に1人のサブティーチャーを確保しており、

サブティーチャーは、

就労移行支援事業所スタッフ、大学教授、一般の特別支援学校スタッフで占められ、ほぼ「支援スタッフ」であった。

人材配置としては、「福祉」と「教育」を切り口に障がい者とともに歩もうとする包容力を持った人材が中心メンバーには欠かせないことから、運営母体である福祉教育支援協会の

スタッフに必要な研修を受けてもらい、これまでの福祉や教育概念を理解しつつも、そこから離れ新しい価値観を作り出す気概を持って取り組んでもらった。

本事業では、コーディネーターが社会学をフィールドにしつつ福祉事業を教育でとらえていることから、研究内容はその日常的に思考していることの検証という形で推進できたのが実情である。さらに社会への啓もうに向けてコーディネーターによるメディア活用については、メディア出身の大槻一敬を配置し積極的な配信を心掛けた。一方で精神障害者などの受講生のケアをする必要から福祉スタッフを必ず配置するなどの配慮も行ってきたことにより、障がい者支援へのボランティアに消極的な方へも積極的に参加を促すアプローチができる環境が醸成されたと考えている。

またコーディネーターによるオープンキャンパス実施に伴う周知広報及び視察・調査先は以下であった。

【訪問した特別支援学校】

訪問日時	学校	面談者
2018年1月22日	埼玉県立和光南特別支援学校	進路指導担当
2018年1月24日	埼玉県立三郷特別支援学校	校長、進路指導担当
2018年1月24日	東京都立王子特別支援学校	進路指導担当
2018年1月25日	埼玉県立入間わかくさ特別支援学校	校長、進路指導担当、 コーディネーター
2018年1月25日	埼玉県立富士見特別支援学校	進路指導担当
2018年1月26日	埼玉県立川越特別支援学校	進路指導担当
2018年1月26日	埼玉県立所沢あおぞら特別支援学校	進路指導担当
2018年1月30日	埼玉県立上尾特別支援学校	進路指導担当
2018年1月30日	埼玉県立春日部特別支援学校	進路指導担当
2018年1月31日	埼玉県立さいたま桜特別支援学校	進路指導担当
2018年1月31日	埼玉県立川口特別支援学校	進路指導担当
2018年2月1日	川越市立川越特別支援学校	進路指導担当
2018年2月2日	東京都立板橋特別支援学校	進路指導担当
2018年2月6日	埼玉県立大宮北特別支援学校	進路指導担当
2018年2月6日	埼玉県立久喜特別支援学校	進路指導担当
2018年2月7日	埼玉県立越谷西特別支援学校	進路指導担当
2018年2月8日	埼玉県立東松山特別支援学校	進路指導担当
2018年2月8日	埼玉県立行田特別支援学校	進路指導担当
2018年2月18日	埼玉県立羽生ふじ特別支援学校	進路指導担当
2018年2月23日	東京都立中野特別支援学校	進路指導担当

【視察及び障がい者の学びに関する対話先】

日程	訪問先・場所・催し	所在地 及び開催地	内容
2018年1月18日	ジョイアスクール・ つなぎ	奈良市	自立訓練・就労移行を利用 した福祉型専攻科

2018年4月21日	牧之原やまばと学園	静岡県 島田市	障害者支援施設垂穂寮(障害者支援全般)
2018年7月2-3日、9月10日	旭出学園	東京都 練馬区	私立の特別支援学校高等部専攻科及び特別支援学校専攻科教育実践研究会
2018年7月20-21日及び2019年2月9日	福祉型専攻科シャントイツクバ	茨城県 つくば市	・自立訓練を利用した「学びの作業所」交流会 ・文化祭と学習発表会
2018年8月24日	聖母の家学園	三重県 四日市市	私立の特別支援学校・専攻科
2018年8月25-26日	全国専攻科実践研修講座	名古屋市	全国の専攻科関連の関係者の研修会
2018年9月22日	全国不登校情報センター	東京都 江戸川区	不登校に関する支援を行う任意団体(学習障がい者等)
2018年9月24日	日本キリスト教団埼玉地区アーモンドの会	埼玉県 和光市	キリスト教会における精神疾患に関する任意団体
2018年11月22-24日	日本LD学会新潟大会	新潟市	学習障害に関する学術団体
2018年11月23日	KINGO カレッジ新潟	新潟市	福祉型専攻科
2018年11月30日	法定外見晴台学園大学	名古屋市	私立の特別支援学校・専攻科(自立訓練等)
2018年12月1日	全国専攻科(特別ニーズ教育)研究会	名古屋市 熱田区	専攻科に関する研究団体
2018年12月5日	若葉学園特別支援学校	前橋市	私立の特別支援学校専攻科・研修科
2018年12月8-9日	全国専攻科(特別ニーズ教育)研究会全国大会	和歌山県 田辺市	専攻科に関する研究団体
2018年12月12日	NPO 法人地域ケアさぽーと研究所	東京都 小平市	重度心身障害者向けの訪問学習等
2019年2月14日	福祉型専攻科エコール神戸	神戸市 長田区	福祉型専攻科、就労継続支援B型
2019年2月15日	就労継続支援B型事業所ポズック(社会福祉法人一麦会)	和歌山県 紀の川市	就労継続支援B型事業所及び障害者支援全般
2019年2月22日	本吉絆つながりたい	宮城県 気仙沼市	知的障害者の母親の会

上記の訪問や視察先はすべて「障がい者の生涯教育」の観点から社会における有効な取り

組みに「接しられる」「ニーズを得られる」「課題が浮き彫りになる」「可能性が広がる」ことを予見して行われたものである。

特別支援学校においては、上記の20校の訪問により、それ以外で電話での対話やメールでの対話などを含めると、特別支援学校に携わる方々との多くの対話を得られたことで、特別支援学校の現状として、将来に対する不安の中で、就労するというゴール設定のもとで教育が行われていることを実感するとともに、教員の多くは、生徒の長い人生を考えた時に、「さらに学ぶ」という選択肢はあってほしいと望んでいることも分かった。

視察先としては、事業委託契約締結前の福祉型専攻科「ジョイアスクールつなぎ」（奈良市）、障害者支援施設全般「牧之原やまばと学園」（静岡県島田市）も全体の流れから、障害者の学びについて参考になることが多く、明記した。特にジョイアスクールつなぎでは、学生の自主性により各種創作活動の手法、やまばと学園は重度障害者に対する日中プログラムの方法に長年蓄積された合理的な対応が参考となった。

18歳の障害者の学びの視点で、形態として「私立の特別支援学校の専攻科」と「福祉型専攻科」の2つがあり、前者では「シャンティつくば」（茨城県つくば市）、KINGO カレッジ新潟（新潟市）、法定外見晴台学園大学（名古屋市）、「エコール神戸」（神戸市）があり、視察によるそれぞれのカリキュラムを見学した。一方で福祉型の在り方としては、特別支援学校教員OBが関わるケースが多いことから、特別支援学校の延長線上としての学習のイメージが先行する傾向があることも認識された。

また福祉型専攻科については「全国専攻科実践研究講座」（名古屋市）、「全国専攻科（特別ニーズ教育）研究会」（和歌山市）にて登壇するなど福祉型専攻科の在り方を含め、青年期の教育について全国各地の事例のほか、実際に通学している学生との交流により多くの気づきを与えられた。

先ほどの後者にあたる「私立特別支援学校連合会」では、「旭出学園」（東京都）、「聖母の家学園」（三重県）、若葉高等学園特別支援学校（群馬県）では、確実に教育の目標に向けてカリキュラムが組み立てられ、教員の自覚をもとに学生と接している点は福祉型と大きく異なるといえる。この対応の差が教育的効果となるのかは今後の検証が必要であろう。

また福祉サービスを受けていない障害者のニーズを知るために、「全国不登校情報センター」（東京都）、「日本キリスト教団埼玉地区アーモンドの会」（埼玉県和光市）、NPO 法人地域ケアサポート研究所（東京都）、本吉絆つながりたい（宮城県気仙沼市）を訪れ、学習障害や精神障害者の「学び」の場が少ないことをあらためて実感するとともに、医療ケアの必要な方々が18歳以降の学びを渴望している実態も分かった。

また「就労継続支援B型施設ポズック」では、障害者のチンドン屋を運営しており、演舞を学ぶにしながら、「自分が演じること」をいかにポジティブにとらえられるかの学びも必要であるが、これこそが必要な学びであることも確認できた。

【メディア教育に関する調査について】

調査 特別支援学校高等部でのメディア教育の認識について一適正な『メディア』利用に向けた研究の前提として

概要

対象 2018年6-7月に全国の特別支援学校高等部（知的障がい）850校

法式 郵送で回答

回答数 150

知見

- ・パソコンやスマートフォン等のメディアの保持とそのメディアを使用しているソーシャルメディアの利用が広く普及、トラブルも発生
- ・トラブルに対応するための有効なメディア教育は確立されていない
- ・現場教員も対応苦慮しメディア教育に関するガイドラインの必要性を感じている声は多い
- ・メディア教育が「絶対必要」「まあ必要」がほとんどで、必要性は強く認識されている
- ・「トラブル回避のため」というネガティブな対応策を導き出しているケースが多い
- ・回答の中では「問題」「トラブル」「悪口」「不満」「安全」というネガティブな言葉を使用して必要の理由を説明したケースが39件にも上っている
- ・防衛のための置づけに迫いやられている実態がある

発表 本報告書のほかシャローム大学ホームページ、日本マス・コミュニケーション学会2019年度春季発表大会=6月15、16日（立命館大学）

(4) 成果等の普及

①実施経過

(具体的な内容は6.(4)②に記載すること。)

4月	事前準備
5月	事前準備
6月	事前準備
7月	事前準備 7月31日 引地達也公式ブログ「やさしい未来」 学習障がい・知的障がいのある方の「学ぶ」は広がっている
8月	8月8日 引地達也公式ブログ「やさしい未来」 学びの適正化を探る「研究」スタート 8月16日 インターネットコラム「ニュース屋台村」 学びの適正化を探る文科省の「委託研究」スタート
9月	9月4日 引地達也公式ブログ「やさしい未来」 文科省の政策転換で運動発展の契機になるか
10月	10月1日 インターネットコラム「ニュース屋台村」 大人の知的障がい・学習障がい者にどうたどり着くか 10月9日 インターネットコラム「ニュース屋台村」 障がい者の生涯学習に向けた取り組みがスタートして 10月16日 引地達也公式ブログ「やさしい未来」 笑いの歴史にメディアの流れ、そして私たちが学ぶために 第二回オープンキャンパス開催報告（法定外シャローム大学ホームページ掲載） 10月24日 引地達也公式ブログ「やさしい未来」 教えることと学ぶことの今更ながらに一
11月	第三回オープンキャンパス（その1）開催報告（法定外シャローム大学ホームページ掲載）

	<p>11月21日 引地達也公式ブログ「やさしい未来」 障がい者のチンドン屋が繰り広げる新しい世界 第三回オープンキャンパス（その2）開催報告（法定外シャローム大学ホームページ掲載） 第一回から第三回までの模様を約3分におさめた「オープンキャンパス紹介ムービー」をYouTube及び法定外シャローム大学ホームページで公開</p>
12月	<p>12月27日 インターネットコラム「ニュース屋台村」 ボランティアと障がい者が交わるフィールドワークから</p>
1月	<p>第四回オープンキャンパス開催報告（法定外シャローム大学ホームページ掲載） 1月23日 引地達也公式ブログ「やさしい未来」 専攻科の思いや青年学級の伝統を受け継ぐために 1月28日 インターネットコラム「ニュース屋台村」 通学、連携、訪問の三つの型で学校をつくる</p>
2月	<p>第五回オープンキャンパス開催報告（法定外シャローム大学ホームページ掲載） 2月20日 引地達也公式ブログ「やさしい未来」 「実践」の方向を正しく導く「学び」に向かって 成果報告会開催（2月26日和光市中央公民館） 成果報告会開催報告（法定外シャローム大学ホームページ掲載）</p>
3月	<p>成果普及に向け他地域でのオープンキャンパス実施の協議を長野県佐久市と開始 成果報告書の冊子頒布へ（関係機関向け） 作成したDVDを東京リーガルマインド社のHPに公開へ</p>

②具体的な内容

（成果等の普及に係る取組内容を具体的に記載すること。成果報告会等のフォーラム等を開催した場合、実施スケジュールや内容、参加者のターゲット（自治体・関係団体・一般等）等を記載すること。（参加者実績については、下記表を参考に記載すること。）なお、取組の結果を踏まえて今後さらに検討すべき点や課題等についても触れること。）

本事業は「障害者の生涯学習」という新しい概念を知ってもらうために、まずは関係者や専門領域にいる方々に直接会うのを基本として、(3)―③の訪問や視察先についても、本事業を知ってもらうことも考え行動した。同時に文科省の全体的な取組から本件のオープンキャンパスの細部においては、インターネットコラムサイトで紹介した。

コラムは引地の公式ブログ「やさしい未来」、「ニュース屋台村」「精神系ポータルサイト、サイキュレ」での掲載が基本であるが、時にはコラムが評価され、ほかのインターネットページで引用されることもあり最終リーチ数は不明であるが、1つの記事につき100以上のアクセスは確実で、時には1万アクセスを超えるときもあった。同時に本件の調査・視察や連携協議会、オープンキャンパスはすべて開催報告及び実施報告として法定外シャローム大学のホームページに掲載している。

オープンキャンパスの模様は1から3回目までを収録した映像で紹介するために法定外シャローム大学のホームページで公開されている。さらにすべてのオープンキャンパスの模様は映像で収録しており、各回の講義やワークショップを分割し1回のオープンキャンパスで数回にわたって分割する形で、この春にも東京リーガルマインドで公開する予定である。

成果報告書は印刷したものを関係機関に頒布する予定である。

【参考：参加者実績】

(A) 参加者の属性について

	合計（人）	男性（人）	女性（人）
属性別参加者数	211	134	77
（内訳）			
行政関係者（教育委員会）	0	0	0
行政関係者（首長部局）	7	7	0
学校教育関係者（大学等関係者を除く）	2	1	1
大学等関係者	5	3	2
公民館等社会教育施設関係者	0	0	0
社会福祉法人関係者	25	7	18
NPO法人関係者	8	5	3
企業関係者（商工会等含む）	25	23	2
保護者団体関係者（親の会・手をつなぐ育成会等含む）	5	1	4
その他一般参加者	121	81	40
運営事務局関係者	13	6	7

(B) メディアインパクト（報道等での周知状況）

	件数
新聞	なし
ラジオ FM レインボーラジオ「イレブンミュージック」ゲスト出演でオープンキャンパスを紹介（2018年8月16日、2019年2月28日）	2
テレビ	なし

※該当がある場合、別途参考となる資料を添付のこと。

7. 本実践研究事業の実施により得られた成果・効果

(自立や社会参加・就労等に関する具体的なエビデンスに基づく成果・効果)

(事業の実施により直接的に得た成果／アウトプット)

本事業を統計的にみると、参加者は延べ 211 人でそのうち当事者は 121 人であり、障害種別では 7 割以上が精神障害であった。オープンキャンパス受講後のアンケートの結果、ほとんどが「楽しかった」をはじめとするポジティブな評価であった。

「基礎教育ステージ」「関わりあいステージ」「実践教育ステージ」の各受講者は、平日開催の基礎教育ステージの 2 回目が最多であり、実践教育ステージに関しては、仕事をしている人の参加を促すために土曜日と祝日に行ったが、「仕事をしているが、学びたい」との意向の 20 歳男性が両親と受講したのが唯一であった。実際に仕事をしている障害者への声掛けも試みたが、「休日は休みたい」という反応が複数あり、このような反応も少なくないと予想できるが、学びたい人向けには今後も土日祝日のプログラムを用意するのは必要であろう。

また、「基礎教育ステージ」「関わりあいステージ」「実践教育ステージ」の骨格については、それぞれの担当講師の力量もあり優れたコンテンツになったと考えている。

特にアクティブラーニングを意識して以下の点を「約束事」として展開したことは今後も継続すべき点だと考えている。

- ・講義の座学は 15 分以上行わない
- ・アクティブラーニングを心掛け、15 分に一回、体を動かすワークを行う
- ・サブティーチャーは 4-5 人に対し 1 人を基本とするが、障害特性により 1 対 1 になるケースも珍しくないことを認識する
- ・受講者の学習への意欲や達成感サブティーチャーのファシリテーターとしての能力も必要であり、ファシリテーター育成も課題である

また本事業を大きくとらえての総括としては、最終報告会で示したとおり、

- ・学びの可能性はますます広がる
- ・18 歳以降の知的障がい者へのアクセスが少ないころから、この方々へのつながりを意識した社会的行動が必要である
- ・和光市や地域が一体となって学びに関する啓もうする必要がある
- ・地域連携の重要性を確認する
- ・精神障害者の「学び」のニーズは高い
- ・「訓練」とは切り離し「学びあい」でよりよい人生に向けた機会としてとらえたい
- ・授業は 1 日も有効である（一緒にごはんを食べる機会関係づくりには有効である）
- ・半日などで簡易バージョンも受講しやすさという点が必要である

であった。

(事業の実施により終了後（中長期的）に得たい成果／アウトカム目標)

※数値を用いる等して具体的に記載すること

本件により、実際に障害者の生涯学習に向けて行われる「法定外シャローム大学」での恒久的な障害者の生涯学習の運用に向けて、以下の 3 点を行うべく準備を進めている。

- ・通学型学習 通常の通学与講義や自習をキャンパスで行うスタイル
 - ・訪問型学習 医療ケアの必要な方の居室等に講師がうかがい講義をするスタイル
 - ・連携型学習 遠隔の教室を複数結び、テレビ会議システムを使っての講義スタイル
- 形式は様々であるが、教科の項目は大枠で同様とし、さまざまな形であれ体系づけたもの

を学ぶスタンスとしながらも、障害特性や個人のニーズに合わせて柔軟に対応していきたい。現在想定している以下の学習単位に準じたプログラムの位置づけをすることで、すべての型の人が「同じカリキュラムでコミュニティ化」してつながっていくことを目指したい。

通学型で2カ年かけての想定単位は以下であり、この科目に本事業で得られた知見をあてこみながらさらなる開発を進めていく。

基礎課程履修科目（2年）

科目区分	授業科目	1年 単位	2年 単位	開設 単位	必須 単位
基礎科目	言語と生活Ⅰ	4		4	8
基礎科目	言語と生活Ⅱ		4	4	
基礎科目	芸術と生活Ⅰ	4		4	8
基礎科目	芸術と生活Ⅱ		4	4	
基礎科目	科学技術と生活Ⅰ	4		4	8
基礎科目	科学技術と生活Ⅱ		4	4	
基礎科目	人間と生活Ⅰ	4		4	8
基礎科目	人間と生活Ⅱ		4	4	
基礎科目	健康と生活	2	2	4	4
基礎科目	情報と生活	2		2	2
演習	基礎演習Ⅰ	4		4	8
演習	基礎演習Ⅱ（課程修了論文）		4	4	
実習1	オリエンテーションⅠ	2		2	4
	オリエンテーションⅡ		2	2	
実習2	ボランティア活動Ⅰ	2		2	4
	ボランティア活動Ⅱ		2	2	

3年度間をイメージした展開は以下の通りとの記載を計画段階でしているが、基本的に変わず、本事業の研究開発で抽出されたアウトプットは2年目で「実証」として、再度オープンキャンパス開催で修正点を含めて完成させるとともに、他地域での実施により、その有効性を確認、さらにこれは本事業外ではあるが「法定外シャローム大学」内のプログラムにおいて、実際に研究開発されたノウハウを生かしたカリキュラムを1年通じて実践することで、研究開発の実証をしていきたい。さらには講義を映像化して他地域での教育効果なども実験していく。この結果を受けて3年目は継続してオープンキャンパスと「大学」授業でも実践を行うとともに、実際に他地域でのオープンキャンパスを開催し、より広範囲で「学び」の機会を提供できる環境整備に向けた取組を行い、本プログラムを全国で行いたい場合のガイドラインを作成し、全国に展開する支援を行う。これには全国に向けての啓もう活動も必要であり、全国発信のイベント開催も念頭に置く必要があるだろう。

	期間の位置づけ	主な内容	成果イメージ
1年目	研究開発	オープンキャンパス開催 （本事業）	講義内容等のフォーマット化 等（本事業）
2年目	実証	オープンキャンパス開催 ・和光市モデルの確立 ・他地域での開催	1年目の成果を効果測定し、 和光市での継続実施と確立、 他地域での展開、訪問講義の

		訪問型講義の実施 連携型講義の実施（本事業外） 法定外「大学」で検証（本事業外）	可能性の追求により、各コンテンツの充実と形を提供する。さらに展開可能な型をフォーマット化、映像での遠隔地参加や DVD による時差参加の可能性を提供
3 年目	展開	オープンキャンパス開催 法定外「大学」で検証 他地域での講座開催 DVD による他地域開催 訪問型や連携型などのさまざまな形で、どんな障害の方でも学習できる環境とするための取組み	全国で障害者の学びがコミュニティ化して、そのコンテンツやフォーマットを提供できる。各地での実践が広がり、大きなコミュニティと小さなコミュニティが有機的に交わる「障害者の生涯学習」が展開する

また本事業での開発をベースに実際の「法定外大学」運営中の単位取得の中で、各科目の授業設定や履修の仕方を研究していく。

現在 2 年で習得想定している基本科目は 7 で項目を記載している以下である。

言語と生活—ことばとコミュニケーションについての基本を学ぶ

芸術と生活—絵画や音楽、そのほかの感性を表現することについて学ぶ

科学技術と生活—世の中の仕組みを科学の視点から考える

人間と生活—人とは何かを体の構造（自然科学）から、社会学、倫理学を踏まえて学ぶ

健康と生活—食事や健康維持の方法等、自己管理するための学び

ボランティア活動—東日本大震災の被災地の重度障害者施設への合宿活動

フィールドワーカー—地域とつながり、地域の成り立ちを屋外で調子、生徒たちどうして協力しながら学ぶ

3 年間の取組は、シンポジウムや学会などを通じて広く検証結果を知ってもらい、出版化・冊子化により各地域で、自治体や地域のファシリテーターが中心になって開催するのを可能とする仕組みにしていきたい。